

# Sun Java™ System Directory Proxy Server リリースノート

バージョン 5.2 2005Q4

Part No. 819-3522

---

このリリースノートには、Sun Java System Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 のリリース時点で判明している重要な情報が含まれています。ここでは、新機能および拡張機能、既知の問題および制限、その他の技術情報などを記載します。Directory Proxy Server 5.2 をお使いになる前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、次の Sun Java System マニュアル Web サイトで参照できます。<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4>。ソフトウェアをインストールおよび設定する前に、この Web サイトを参照してください。また、その後も定期的に Web サイトを参照して、最新のリリースノートや製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- [リリースノートの変更履歴](#)
- [Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の概要](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題および制限](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [その他の情報](#)

このリリースノートで参照先として示しているサードパーティの URL で、追加情報や関連情報を得ることができます。

---

**注** 米国サンマイクロシステムズ社は、このリリースノートで示しているサードパーティの Web サイトを使用できるかどうかについては責任を負いません。また、これらの Web サイトまたはリソースで利用可能なコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料を保証したり、これらに対して責任を負ったりすることはありません。さらに、これらの Web サイトまたはリソース上で、またはこれらを通して利用可能なコンテンツ、商品、またはサービスにより生じた、またはこれらを使用または信用したことに関連する実際の、または申し立てられた損害や損失に対しても責任を負いません。

---

---

# リリースノートの変更履歴

表 1 変更履歴

日付	変更点
2005年6月24日	ベータリリース
2005年9月	商用リリース

---

## Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の概要

Directory Proxy Server のマニュアルとコンソールには、製品のバージョン番号が 5.2 と表記されている部分があります。Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 は Directory Proxy Server 5.2 の保守リリースです。

ここでは、次の内容について説明します。

- [このリリースの新機能](#)
- [ハードウェアおよびソフトウェアの要件](#)

## このリリースの新機能

Directory Proxy Server 5 2005Q4 よりも前のバージョンの Directory Proxy Server では、非認証クライアントからの要求でネットワークグループを変更することはできません。Directory Proxy Server 5 2005Q4 では、非認証クライアントからの要求でネットワークグループを変更できます。

非認証クライアントは、匿名クライアントと同じではありません。匿名クライアントからの最初の操作は、長さ 0 の名前によるバインド操作です。非認証クライアントからの最初の操作は、バインドではなく、検索操作などの別の LDAP オペレーションです。非認証クライアントからの要求は、特別なネットワークグループに分類されます。

Directory Proxy Server 5 2005Q4 では、非認証クライアントからの要求を、異なるネットワークグループに再分類することができます。この機能は、次のオブジェクトクラスと属性で利用できます。

- `ids-proxy-sch-OnOperationSuccessRule`
- `ids-proxy-con-operation-add`
- `ids-proxy-con-operation-compare`
- `ids-proxy-con-operation-delete`
- `ids-proxy-con-operation-extended`

- `ids-proxy-con-operation-modify`
- `ids-proxy-con-operation-modrdrn`
- `ids-proxy-con-operation-search`

属性の値が TRUE に設定されている場合、非認証クライアントからの要求でも、その属性で指定された種類の要求であれば、ネットワークグループが変更されます。

この機能を設定するには、パッチリリースで提供される `shared/bin/enableRFE5042027.tcl` スクリプトを実行します。

## ハードウェアおよびソフトウェアの要件

このリリースの Directory Proxy Server には、次のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

表 2 Solaris SPARC® のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
CPU	Java Enterprise System に必要なパッチを適用した Solaris 8 SPARC Platform Edition  Java Enterprise System に必要なパッチを適用した Solaris 9 SPARC Platform Edition  Java Enterprise System に必要なパッチを適用した Solaris 10 SPARC Platform Edition
RAM	256M バイト
空きディスク領域	最小インストール用として約 300M バイトの空きディスク領域
パッチまたはサービスパック	<a href="http://sunsolve.sun.com">http://sunsolve.sun.com</a> を参照
Java	Java Runtime Environment 1.4

表 3 Solaris x86 のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
CPU	Solaris 9 x86 Platform Edition  Solaris 10 x86 Platform Edition
RAM	256M バイト
空きディスク領域	最小インストール用として約 300M バイトの空きディスク領域
パッチまたはサービスパック	<a href="http://sunsolve.sun.com">http://sunsolve.sun.com</a> を参照
Java	Java Runtime Environment 1.4

表 4 Linux のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
オペレーティングシステム	RedHat Advanced Server 2.1 Update 6 または RedHat Advanced Server 3.0 Update 4
パッチまたはサービスパック	<a href="http://sunsolve.sun.com">http://sunsolve.sun.com</a> を参照
Java	Java Runtime Environment 1.4
互換性ライブラリ	次の互換性ライブラリ <ul style="list-style-type: none"> <li>• compat-gcc-7.3-2.96.128.i386.rpm</li> <li>• compat-gcc-c++-7.3-2.96.128.i386.rpm</li> <li>• compat-libstdc++-7.3-2.96.128.i386.rpm</li> </ul> <p>64 ビット Linux を実行している場合は、32 ビット Linux 用のシステムライブラリをインストールする必要があります。</p>

## このリリースで修正されたバグ

次の表に、Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 で修正されたバグを示します。

表 5 Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 で修正されたバグ

バグ番号	バグの概要
4993108	SSL を通じて大きいエントリを取得すると、エントリが切り捨てられる
6269941	アップグレード後に DPS が mpsconsole で間違ったバージョンを表示する
6228761	TCP 接続を終了せずにリフェラルを追跡すると ldapfwd (バージョン 5.2.07 以上) が win2k で CPU を 100% 使用している
6234980	JES3 DPS 5.2SP3 で、リモートから DPS ポートに telnet で接続しているときに「今すぐ設定」でインストールするとクラッシュする
6192536	BIND dn のあとに "+" がある場合、CAI_LF_AclARProperty::server_rename_dn_attrs でクラッシュする
4916532	新しいログプロパティ定義を作成するときに、ログファイルの制限とローテーションに失敗する
6243035	独立したファイルに監査ログを書き込んでいる場合、ログファイルの削除後に DPS がログ情報の書き込みを停止することがある
6247329	ldapfwd が malloc でクラッシュする
6272376	CAI_LF_Server オブジェクトへの参照が正しく管理されない
6226504	DPS が BIND リフェラル応答に従わない

表 5 Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 で修正されたバグ (続き)

バグ番号	バグの概要
6303762	Patch DPS Linux で、パッチの適用後に /opt/directory-proxy-server/5.2/bin/tcl8.2/ が空になる

## 重要な情報

この節には、製品の主要マニュアルには含まれていない最新の情報が含まれています。ここでは、次の内容について説明します。

- [障害者のためのユーザー補助機能](#)
- [インストール上の注意](#)
- [互換性に関する問題](#)
- [マニュアルに関する注意事項](#)

## 障害者のためのユーザー補助機能

このメディアの出版後にリリースされたユーザー補助機能入手する場合は、請求に応じて Sun から提供される 508 条に関する製品評価資料を参照し、使いやすいソリューションの配備にもっとも適したバージョンを調べてください。最新バージョンのアプリケーションは、<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。

ユーザー補助機能に対する Sun の対応については、<http://sun.com/access> を参照してください。

## インストール上の注意

ここでは、Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 のインストール、またはこのバージョンへの移行に関する注意事項について説明します。

この製品のベータリリースでは、アップグレードはサポートされません。パッチバージョンは、製品の商用リリースで提供されます。

### パッチの要件

以下の表に、整合パッチの番号と最低バージョンを示します。

ここに示されているパッチはすべて、アップグレードで必要とされる最低バージョンです。このドキュメントの出版後に新しいバージョンのパッチが発行されている可能性があります。新しいバージョンには、パッチの末尾に異なるバージョン番号が示されています。たとえば、123456-04 は 123456-02 よりも新しいバージョンですが、パッチ ID は同じです。各パッチに固有の手順については、README ファイルを参照してください。

これらのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> で入手できます。

---

**警告**      製品の依存関係を維持するために、次の表に記載されている順序でパッチをインストールする必要があります。

---

表 6    Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の Solaris 8 (SPARC) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
116103-06	International Components for Unicode Patch
119209-04	NSPR 4.5.2 / NSS 3.10 / JSS 4.1
115328-02	Simple Authentication and Security Layer (2.01)
115610-23	Administration Server 5.2 patch
116837-02	LDAP CSDK - SUNWldk
117017-20	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ
116373-18	Directory Proxy Server 5.2 Patch
119725-02	LDAP JDK Patch

表 7    Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の Solaris 9 (SPARC) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
114677-08	International Components for Unicode Patch
119211-04	NSPR 4.5.2 / NSS 3.10 / JSS 4.1

表 7 Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の Solaris 9 (SPARC) 用の整合パッチ ( 続き )

パッチ番号	パッチの説明
115342-02	Simple Authentication and Security Layer (2.01)
115610-23	Administration Server 5.2 patch
116837-02	LDAP CSDK - SUNWldk
117017-20	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ
116373-18	Directory Proxy Server 5.2 Patch
119725-02	LDAP JDK Patch

表 8 Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の Solaris 9 (x86) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
114678-08	International Components for Unicode Patch
119212-04	NSPR 4.5.2 / NSS 3.10 / JSS 4.1
115611-23	Administration Server 5.2 patch
116838-02	LDAP CSDK - SUNWldk
117017-20	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ
116374-18	Directory Proxy Server 5.2 Patch
119725-02	LDAP JDK Patch

表 9 Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の Solaris 10 (SPARC) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
114677-08	International Components for Unicode Patch
119213-04	NSPR 4.5.2 / NSS 3.10 / JSS 4.1
115342-01	Simple Authentication and Security Layer (2.01)
115610-23	Administration Server 5.2 patch
116837-02	LDAP CSDK - SUNWldk
117017-20	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ
116373-18	Directory Proxy Server 5.2 Patch
119725-02	LDAP JDK Patch

表 10 Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の Solaris 10 (x86) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
114678-08	International Components for Unicode Patch
119214-04	NSPR 4.5.2 / NSS 3.10 / JSS 4.1
115611-23	Administration Server 5.2 patch
116838-02	LDAP CSDK - SUNWldk
117017-20	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ
116374-18	Directory Proxy Server 5.2 Patch
119725-02	LDAP JDK Patch

Linux システムでは、整合パッチには、<http://sunsolve.sun.com> から入手できる Directory Proxy Server のパッチおよび共有コンポーネントパッチが含まれており、配布 CD で提供されています。RPM の場所の検索およびインストールについては、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 アップグレードと移行』の「Linux 共有コンポーネント RPM の適用」を参照してください。

表 11 Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の Linux 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
118096-08	sun-directory-proxy-server-5.2-13.i386.rpm sun-icu-2.1-6.i386.rpm sun-sasl-2.18-1.i386.rpm sun-nspr-4.50.2-4.i386.rpm sun-nss-3.10-4.i386.rpm sun-ldapcsdk-5.12-3.i386.rpm sun-jss-4.1-4.i386.rpm sun-ljdk-4.18-4.i386.rpm sun-admin-server-5.2-18.i386.rpm sun-server-console-5.2-18.i386.rpm

Sun Java Enterprise System の詳細については、<http://www.sun.com/service/sunjavasystem/javaenterprisesystem.html> を参照してください。

## SSL 用証明書のための Directory Proxy Server の設定

SSL を利用した通信を行なうための Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 の設定方法については、『Sun Java System Directory Proxy Server 5 2005Q1 管理ガイド』を参照してください。



## インストールのログファイルの検索

インストール中に生成されるログファイルについては、以下の表を参照してください。

表 12 インストールのログファイルが保存される場所

プラットフォーム	ログ (管理者 /root)	ログ (管理者 /root)
Solaris	/var/sadm/install/logs	/var/tmp
Solaris x86	/var/sadm/install/logs	/var/tmp
Linux	/var/tmp	/var/tmp

## 互換性に関する問題

Directory Server およびその他のソフトウェアのリモートグラフィカル管理で現在使用されている Sun Java System Administration Server および Java Swing ベースのコンソールは、置き換えられる可能性があります。ファイアウォールを介したアクセスの設定を簡単にし、完全なブラウザベースのサービス管理を行えるようにするために、新しい実装が導入される可能性があります。

その結果として、将来のリリースには、次のコマンドが含まれなくなる可能性があります。

- start-admin
- stop-admin
- startconsole

さらに、o=NetscapeRoot 内のすべてが変更される可能性があります。具体的には、o=NetscapeRoot が存在しなくなり、serverroot アーキテクチャーが別のものに置き換えられる可能性があります。

## マニュアルに関する注意事項

- Directory Proxy Server のマニュアルとコンソールには、製品のバージョン番号が 5.2 と表記されている部分があります。Directory Proxy Server 5 2005Q4 は、Directory Proxy Server 5.2 の保守リリースです。
- ローカライズされたマニュアルは、利用可能になった時点で <http://docs.sun.com/> に掲載されます。

---

## 既知の問題および制限

ここでは、Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 に関する既知の問題と制限について説明します。

### Directory Proxy Server の起動後に、自動的にネットワーク上で待機しない (4818122)

Directory Proxy Server は、コマンド行から起動した場合、自動的にネットワーク上で待機しません。SSL モードが有効な場合、SSL を起動するためにトークンおよびパスワードを入力する必要があります。トークン要求に成功すると、Directory Proxy Server はネットワークで待機します。

#### 回避策

なし

### 以前使用した名前でオブジェクトの名前を変更できない (4863003)

オブジェクトの名前は、以前に使用した名前に変更することはできません。たとえば、次のようにオブジェクトの名前を指定して変更することはできません。

- myname-1 という名前でオブジェクトを作成し、これを保存する
- このオブジェクトの名前を myname-2 に変更し、この名前で保存する
- このオブジェクトの名前を myname-1 に戻す

この制限は、設定名を含め、名前が付けられるオブジェクトのプロパティのすべてに適用されます。

#### 回避策

問題を回避するには、オブジェクトを新しい名前に変更します。問題を解決するには、コンソールを終了し、再起動します。

### Directory Proxy Server のコンソールでログプロパティのパネルを使用すると、設定が無効になることがある (4864081 および 4942337)

Directory Proxy Server のコンソールのログプロパティのパネルを使用してログプロパティを変更すると、設定ディレクトリサーバーの設定が無効になる場合があります。この問題は、コンソールによって ids-proxy-con-include-logproperty エントリが設定内に生成されないために発生します。

#### 回避策

次の手順を実行して、新しい設定を手動で生成します。

1. dpsconfig2ldif コマンドを使用して、設定ディレクトリサーバーの設定をエクスポートします。
2. LDIF ファイルで、ids-proxy-con-include-logproperty を含む行をコメントアウトします。たとえば、次のようにします。

```
エントリ "dn: ids-proxy-con-config-name=myhost, ou=system, ou=dar-config, o=NetscapeRoot" 内にある #ids-proxy-con-include-logproperty の行をコメントアウトします。
```

3. 以前のシステム設定を削除します。たとえば、次のようにします。

```
ldapdelete -D "cn=Directory Manager" -w password -h dshost -p 389
"ids-proxy-con-config-name=myhost,ou=system, ou=dar-config,
o=NetscapeRoot"
```

myhost は Directory Proxy Server ホストです。

4. dpsldif2config コマンドを使用して、設定ディレクトリサーバーに設定をインポートします。たとえば、次のようにします。

```
./dpsldif2config -C dps-myhost -h dshost -p 389 -D "cn=Directory Manager"
-w password -v ./conf.ldif
```

5. 再度、Directory Proxy Server のコンソールでログプロパティのパネルを使用してログプロパティを変更します。

複数の Directory Proxy Server インスタンスが登録されている場合、オンラインヘルプでエラーが発生することがある (4869580)

オンラインヘルプを表示するために、Directory Proxy Server のコンソールは設定ディレクトリに登録されている Directory Proxy Server インスタンスにアクセスします。設定ディレクトリに複数の Directory Proxy Server インスタンスが登録されている場合、使用される Directory Proxy Server インスタンスを指定することはできません。

オンラインヘルプの要求に応答する Directory Proxy Server インスタンスが使用されない場合、その要求は失敗します。Directory Proxy Server のコンソールは、戻り値および返される例外がないことを認識しません。

#### 回避策

なし

コンソールで設定の名前を変更すると、設定の重複が発生する (4923242)

Directory Proxy Server のコンソールを使用して Directory Proxy Server の設定の名前を変更すると、重複する設定名が作成されます。

#### 回避策

設定のクローンを作成するには、新しい設定を作成し、元の設定に含まれるすべての値を新しい設定にコピーします。

各リフェラルに対してバインドまたはバインド解除が実行される (4943985)

Directory Proxy Server は、バックエンド LDAP サーバーへの既存の接続を再利用する代わりに、各リフェラルに対してバインドまたはバインド解除を実行します。バックエンドサーバーが広域ネットワーク上に配置されている場合は、この問題によってパフォーマンスが低下します。

#### 回避策

なし

#### バインド要求で、リフェラルを正しく処理できない (4951403)

Directory Proxy Server が他のサーバーに対するバインド要求を実行する場合、DN が返されます。ただし、Directory Proxy Server は、返された DN をサーバーへの接続に使用しません。代わりに、元の DN を使用します。このため、バインド要求は動作しません。

#### 回避策

この機能は、バインド要求でのみ制限を受けます。この機能は、検索要求、変更要求、およびその他の要求では制限を受けません。

#### SSL が有効な場合に、コンソールからのリモートインスタンスの起動に失敗する (4961059)

Directory Proxy Server のリモートインスタンスで SSL が有効な場合、コンソールを使用してインスタンスを起動または再起動することはできません。PIN ファイルが存在しないことを示すメッセージがコンソールに表示されます。

#### 回避策

サーバー側と同じパスを使用して、コンソール側に PIN ファイルをインストールします。

#### Directory Proxy Server より先に Administration Server をバックアウトすると、バックアウトに失敗する (5015762)

Directory Proxy Server より先に Administration Server をバックアウトすると、バックアウトに失敗します。

#### 回避策

Directory Proxy Server をバックアウトしてから、Administration Server をバックアウトします。Directory Proxy Server の更新およびバックアウトの詳細については、『Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド』を参照してください。

#### サーバーの root ディレクトリのユーティリティスクリプトのみを使用する必要がある (5033742)

dpsconfig2ldif、dpsldif2config、および migratefromidar50 の各ユーティリティスクリプトは、サーバーの root ディレクトリ以外のディレクトリに複数のバージョンが存在することがあります。ただし、このようなバージョンのユーティリティスクリプトは、不適切な場合があります。

#### 回避策

このディレクトリのユーティリティスクリプト、つまり <serverroot>/bin/dps\_utilities のみを使用します。

#### IDAR 5.0 または 5.0 SP1 から Directory Proxy Server 5 2004Q2 以降のバージョンへの移行に失敗する (5037424)

Directory Access Router 5.0 または 5.0 SP1 から Directory Proxy Server 5 2004Q2 以降のバージョンに移行するときに、migratefromidar50 スクリプトの実行に失敗します。この障害は、Directory Proxy Server 5 2004Q2 以降のバージョンのインスタンスに対するパスワードが tailor.txt ファイル内で暗号化されているために発生します。

#### 回避策

1) tailor.txt ファイルで、Directory Proxy Server 5 2004Q2 以降のバージョンのインスタンスの暗号化されたパスワードを暗号化されていないパスワードに置換します。

2) 移行スクリプトを実行します。

#### Directory Proxy Server のコンソールを起動できない (5041840)

インストール後に、設定ディレクトリサーバーよりも先に Administration Server を起動すると、Directory Proxy Server が Administration Server にアクセスできません。この場合、Directory Proxy Server のコンソールは正常に起動できません。

##### 回避策

Administration Server を起動する前に設定ディレクトリサーバーを起動します。

#### 新しいインスタンスの作成時にコンソールがブロックされる (5042362)

Directory Proxy Server の新しいインスタンスを作成するときに、コンソールがブロックされ、「このビューにデータを読み込む際にエラーが発生しました」というエラーメッセージが表示されます。

##### 回避策

新しいインスタンスを作成するときに、コンソールを終了するか、コンソールを再起動します。

#### Directory Proxy Server の応答が遅いために Web Server で例外が発生する (6245438)

リモートノードから Directory Proxy Server への接続が多数ある場合、Directory Proxy Server の応答が遅くなり、そのために例外が発生します。

#### アップグレードおよびアンインストール中に間違っエラーメッセージが表示される (6293491)

Directory Proxy Server 5 2005Q4 のパッチを適用するときに、次のエラーメッセージが表示されます。

```
couldn't read file
"/opt/sun/directory-proxy-server/5.2/bin/dps/install/script/sync-dps-cds-50203.tcl": no such file or directory
```

Directory Proxy Server 5 2005Q4 のパッチを削除するときに、次のエラーメッセージが表示されます。

```
/var/tmp/rpm-tmp.69288: line 1012: remove_sync_dps_cds_50204: command not found
error: %postun(sun-directory-proxy-server-5.2-12) scriptlet failed, exit status 127
```

これらのエラーメッセージは間違っていますので、無視してください。

#### Directory Proxy Server の設定名を変更すると、コンソールがハングアップする (6295155)

コンソールを使用して設定名を変更すると、コンソールがハングアップします。

#### SunOS\_x86 上で Directory Proxy Server 5 2005Q4 のパッチを削除するときにエラーが発生する (6307084)

SunOS\_x86 上での Directory Proxy Server 5 2005Q4 のパッチのバックアウトはサポートされていません。

## 再配布可能なファイル

Sun Java System Directory Proxy Server 5.2 2005Q4 には、ユーザーによる再配布が許可されているファイルは含まれていません。

---

## 問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Directory Proxy Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun カスタマサポートにご連絡ください。

- Sun Software Support Services  
<http://www.sun.com/service/sunone/software>  
このサイトには、Online Support Center、ProductTracker へのリンクと、保守プログラムやサポート連絡先の電話番号へのリンクがあります。
- SunSolve サポートの Web サイト  
<http://sunsolve.sun.com>  
このサイトには、パッチ、サポートマニュアル、セキュリティ情報、および Sun System Handbook が含まれています。
- 保守契約先に電話連絡してください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した状況および操作への影響などの、問題の具体的説明
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

Sun Java System Directory Proxy Server の話題が議論されている次のフォーラムを購読すると、有益な情報を得られます。

<http://swforum.sun.com>

## コメントの送付先

Sun では、マニュアルの品質を向上するために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。Sun へのフィードバックを送信するには、次の Web サイトのフォームを使用してください。

<http://www.sun.com/contact/feedback/?refurl=http://www.sun.com>

該当するフィールドに、マニュアルの正式なタイトルと Part No. を入力してください。Part No. は、マニュアルのタイトルページまたはドキュメントの先頭に記載されています。通常、7桁または9桁の数字です。たとえば、この Directory Proxy Server 5.2 のリリースノートの Part No. は 819-3522 です。

---

## その他の情報

次の Web サイトには、役立つ Sun Java System 情報があります。

- Sun Java System マニュアル  
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys.05q4>
- Java Enterprise System ソフトウェアサービス  
<http://www.sun.com/service/products/software/javaenterprisesystem>
- Sun Java System ソフトウェア製品およびサービス  
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System サポートおよび Knowledge Base  
<http://sunsolve.sun.com>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス  
<http://www.sun.com/service/products/software/javaenterprisesystem>
- Sun 開発者向け情報  
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス  
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun ソフトウェア一覧  
<http://www.sun.com/software>
- Directory Proxy Server 認定技術者向けトレーニングプログラム  
<http://training.sun.com/US/certification/enterprise>

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。